

まちの「今」をお届けします

JR 小野田線の利用促進を目的に  
特別列車「どさけん号」運行

本市在住の山口県住みます芸人・どさけんさんとタイアップした特別列車「どさけん号」の出発式が、10月29日、JR小野田駅で開催されました。

これは、JR小野田線の利用促進を図るため、市・県・JR西日本等で構成するJR小野田線活性化委員会が企画したもので、どさけんさんを「JR小野田線スペシャルサポーター」に任命し、車両のヘッドマークは、防府市出身のイラストレーター・りおたさんがデザイン。マークは本市のイメージカラーであるオレンジを基調とし、どさけんさんのほか、くぐり岩、工場、おのサン サッカーパークといった小野田線沿線の地域資源が描かれています。

出発式で、藤田剛二市長は「素敵なマークに仕上げていただき、活力と笑顔を届けられるのではと期待している。5か月の運行期間中に、多くの人に楽しんでほしい」とあいさつ。どさけんさんは「ヘッドマークのモチーフにさせていただき光栄。JR小野田線の乗車率向上に繋がれば」と意気込みを語りました。運行期間は令和5年3月末まで。不定期にどさけんさんが乗車し、利用客にプレゼント配布などのおもてなしをします。



左から桑崎伸彦駅長、広岡研二 JR 西日本広島支社長、どさけんさん、りおたさん、藤田市長、藤岡修美市議



防災の大切さを考えるきっかけに  
市防災標語コンクール

未来を担う子どもたちが、防災の大切さについて学ぶ取組として、防災標語コンクールを実施し、11月7日、市民館で表彰式を開催しました。市内小中学生から1,448点の応募があり、最優秀賞には高千帆小学校6年生の大上菜南さんの作品「深めよう 防災知識と 地域のきずな」が選ばれました。



新型コロナ収束への思いをのせて  
古式行事を披露

毎年、厚狭秋まつりで披露される市指定無形民俗文化財「古式行事」。今年も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、まつりが中止となりました。新型コロナの収束を願い、11月13日、大名行列の先導役を務めるみの箱3人が厚狭天満宮で古式行事を披露して、安全祈願をされました。